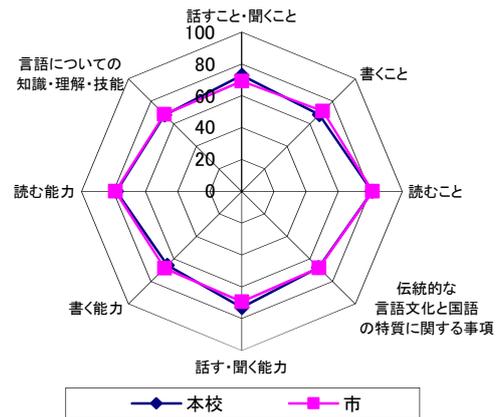


# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.9	69.3	73.4
	書くこと	68.3	71.3	74.6
	読むこと	81.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.6	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	72.9	69.3	73.4
	書く能力	65.7	68.1	71.7
	読む能力	78.2	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	68.0	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

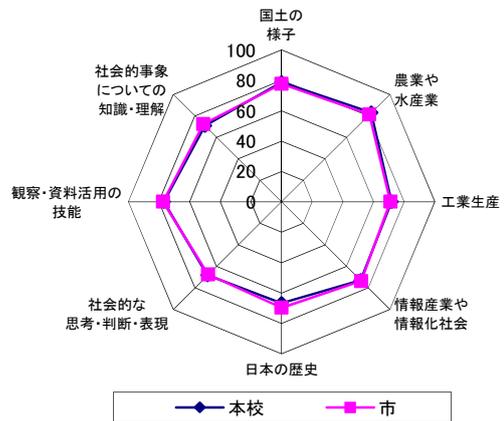
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3.6ポイント高い。</p> <p>○話し方を工夫したり、司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとするなど、話す力が身に付いてきた。授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れ話し合いの力を高めてきた成果であると考えられる。</p> <p>●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめることに課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・話し合いでは、話すだけでなく、友達の話の意図を考えながら聞き、目的をもった話し合いができるようにする。また、他教科や日常でも聞く活動を意識的に取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3ポイント低い。</p> <p>○自分の考えを明らかにして文章を書くことができていく。</p> <p>●資料を読み取ったり、理由や事例を挙げてたりしながら文章を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・資料等を読み取ったり、友達と理由を明確にしなが意見と比較したりする活動を事前に行い、文章に表す活動を取り入れていく。国語以外の教科でも、資料を利用し考えたことを書くことに慣れさせる活動を行っていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.3ポイント低い。</p> <p>○目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができる。朝の読書などで活字の文を読む機会を取り入れてきた成果であると考えられる。</p> <p>●説明文の読み取りでは、物語文に比べ読み取りに課題が見られる。</p>	<p>・語句の意味や接続詞、指示語などの基本的な文章の読み取り方について確認する機会をもつ。説明文では、筆者の主張を押さえ、そのためにどのような理論展開がなされているのかを整理しながら読み取っていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.5ポイント低い。</p> <p>○漢字の読みや熟語の構成について理解している。毎日の音読を課題とし継続した成果であると考えられる。</p> <p>●漢字の書き取りの定着や敬語の使い方に課題が見られる。</p>	<p>・定着を図るため漢字の小テストを小まめに行ったり、同じ漢字を使った学習やテストを行うようにする。</p> <p>・敬語については単元での学習をもとに、日常生活での実践を繰り返し指導していく。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	78.6	77.5	74.0
	農業や水産業	82.9	81.1	73.7
	工業生産	71.8	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	72.9	73.7	63.2
	日本の歴史	66.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.3	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	77.0	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	70.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

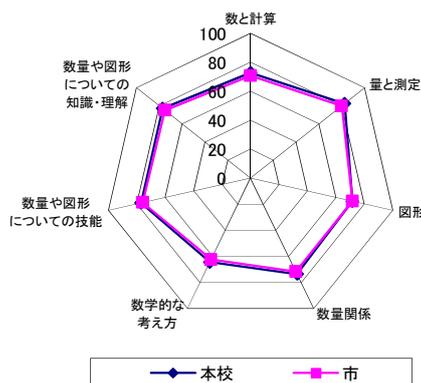
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>平均正答率は、市の平均と比べて1.1ポイント高い。</p> <p>○日本の周囲の国の国旗を問う問題では、正答率が市の平均を8.7ポイント上回っている。国土の样子の学習で、繰り返し指導した成果であると考えられる。</p> <p>●自然災害が起きた際の、自助の大切さについて記述する問題に課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で、表やグラフから読み取り、分かったことを記述する活動を取り入れたり、授業で分かったことを自分の言葉で書く活動を取り入れたりするなどし、自分の考えを表現できるようにしていく。</p> <p>・自然災害の被害や支援について確認し、自分達ができることについて、話し合い活動やペア学習を取り入れながら理解を深めていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均と比べて1.8ポイント高い。</p> <p>○農業で働く人々がかかえる問題について、複数の資料から読み取り記述する問題では、正答率が市の平均を2.8ポイント上回っている。日本の食料生産について、映像を活用し指導してきた成果であると考えられる。</p>	<p>・授業の中で、資料から読み取れる情報を整理、分析して関連付け、複雑な社会事象について読み取りながら、自分の考えを書く活動を取り入れていく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.7ポイント高い。</p> <p>○工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える問題では、正答率が市の平均を1.1ポイント上回っている。工業生産と工業地域について、映像を活用し指導してきた成果であると考えられる。</p>	<p>・知識と知識をつなげて考える力と表現する力を伸ばすため、話し合い活動やペア学習を通し、与えられた言葉を使って事象を説明し合う活動を取り入れる。</p>
情報産業や情報化社会	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.8ポイント低い。</p> <p>○医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える問題では、正答率が市の平均を0.4ポイント上回っている。生活と関連した情報の特色について整理し考えた成果であると考えられる。</p> <p>●メディアを問う問題に誤答が多く、身の回りのメディアについての理解に課題が見られた。</p>	<p>・効果的なメディア活用力を高めるため、知識のみを教え込む授業ではなく、与えられた資料やグラフ、既習の知識を使いながら話し合う活動や、自分の考えを書く活動を取り入れるなど、問題解決的な学習の機会を増やしていく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3ポイント低い。</p> <p>○大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとに考えて、記述する問題では、正答率が市の平均を10.7ポイント上回っている。聖徳太子や聖武天皇などの人物や政治に関連させ指導した成果であると考えられる。</p> <p>●国学について問う問題に誤答が多く、江戸時代の文化や学問の理解に課題が見られた。</p>	<p>・日本の政治的な権力の移り変わりや、文化、芸術について、時代の流れとともに連続的に捉えられるように、時代背景や歴史的事象が起こった要因などをしっかりおさえながら学習を進めていく。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.8	70.8	65.9
	量と測定	82.5	79.9	77.0
	図形	71.6	71.8	74.6
	数量関係	73.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	64.5	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.1	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	77.2	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

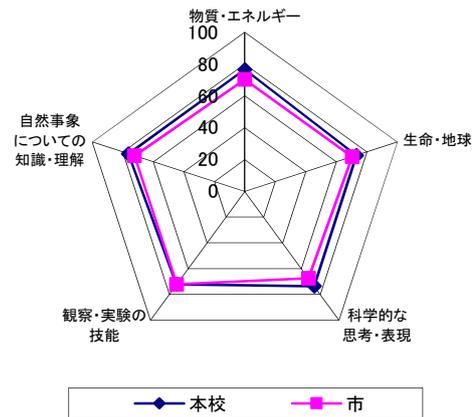
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2ポイント高い。</p> <p>○問題の場面を理解し、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明する問題では、正答率が市の平均を6.9ポイント上回っている。少人数指導により、式で表すことのできる場面と計算の仕方を、しっかり理解させてきた成果であると考えられる。</p> <p>●図を見て、小数倍の文章問題を解くための乗法の式を選ぶ問題に誤答が多く、小数の比較量の求め方の理解に課題が見られる。</p>	<p>・小数の計算・整数のなかま分けの理解や筆算の仕方などについてドリルやプリント等を使い繰り返し練習する。</p> <p>・文章問題を図式化したり、線分図に表したりする手法を繰り返し練習し、論理的に立式できるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2.6ポイント高い。</p> <p>○円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、その求め方を示した図を選ぶ問題では、正答率が市の平均を13.2ポイント上回っている。少人数指導により、面積や体積の求め方をしっかり指導してきた成果であると考えられる。</p> <p>●値に0があり、答えが少数になる連続量の平均を求める問題に誤答が多く、単位量当たりの大きさ・速さの求め方の理解に課題が見られる。</p>	<p>・答えを求めるときに利用する公式のもつ意味をしっかりと理解させながら学習を進めるようにする。</p> <p>・なぜそのように考えたのか自分の考え方について言葉などで説明できるようにする練習を通して、論理的な考えを育てるようにする。</p> <p>・図を使うことにより、視覚的に確認しながら問題の意味を理解したり、論理的に考えたりすることができるようにする。また、体験的な学習活動を取り入れることで、問題の意味を考えながら立式できるように指導をしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.2ポイント低い。</p> <p>○線対称な図形の、対称の軸について問う問題では、正答率が市の平均を5.6ポイント上回っている。少人数指導により、対称な図形について、しっかり指導してきた成果であると考えられる。</p> <p>●五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題に誤答が多く、正多角形・合同・立体の理解に課題が見られる。</p>	<p>・具体物を使って、平面や立体への理解をしやすくするとともに、図の中に、分かっていることを書き込ませたり、式の意味を考えさせたりするなど、数学的な思考力を高めるような指導をしていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均と比べて1.9ポイント高い。</p> <p>○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均を2.3ポイント上回っている。少人数指導により、文字の式について、しっかり指導してきた成果であると考えられる。</p> <p>●反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題に誤答が多く、比例と反比例の理解に課題が見られる。</p>	<p>・比例と反比例の共通するところ、違いについて整理する。</p> <p>・式に当てはめたり、グラフを利用して考えたりなど、多様な思考方法を利用し解答を求められるように、様々な考え方を授業で交流させたり、考えさせたりする時間を設ける。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.6	70.3	69.0
	生命・地球	73.1	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	73.6	67.5	66.4
	観察・実験の技能	72.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	76.3	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均と比べて6.3ポイント高い。</p> <p>○物のとけ方の実験の結果が違った理由を推測する問題では、正答率が市の平均を11.9ポイント上回っている。実験の結果を考察する活動をしっかりと行った成果であると考えられる。</p> <p>●ふりこのきまりでは、ふりこの1往復の動きを問う問題に誤答が多く、ふりこの動き方の理解に課題が見られた。</p>	<p>・実験をする際、ただ実験をするのではなく、何を明らかにするための実験なのかをきちんと児童に示すようにする。また、実験から得られた結果から、何が考察できるのかをペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が考えたり、表現したりできるようにしていく。</p> <p>・ふりこの1往復する時間の調べ方や、ふりこのきまりについて確認するとともに、実験のやり方についても、実験の前にきちんと児童にやり方を示し、正しく実験できるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2.7ポイント高い。</p> <p>○観察した太陽と月の位置関係を考える問題では、正答率が市の平均を12.8ポイント上回っている。教材を用い、分かりやすく提示したり、児童が自分で確認できるようにさせた成果であると考えられる。</p> <p>●植物の発芽と成長では、実験の条件設定を問う問題に誤答が多く、実験の比較検証に課題が見られる。</p>	<p>・正しく実験ができる技能の向上を図るために、理科の学習で実験をする際に、比較して検証をするためには、条件を変えるものと変えないものなどを確認したり、実験の結果とそこから分かったことをおさえたりしていく。</p> <p>・生命・地球の領域においては、できるだけ実物を使って見せたり観察したりするようにしていく。なかなか実物を使って見せることのできない場合は、デジタル資料を使い、児童が実感を伴って理解できるようにしていく。</p>